

4 3年ぶりに上昇した鋳工業生産

本県の鋳工業生産は、2002年から海外景気が徐々に回復したことにより輸出が増加し、生産回復の動きがみられ、03年後半に回復基調となった。06年からは、新興国などへの輸出増加に伴い生産はさらに上昇、07年に入ると高水準を維持しながらも伸びは鈍化し始め、緩やかな低下傾向が続いたが、08年9月のリーマンショックを契機に輸出が急減し、国内需要の減退も相まって、戦後類のない急速かつ大幅な落ち込みを示した。09年に入り、自動車生産にけん引される形で3月から上昇に転じ、10年半ばに弱い動きを示した後、再び持ち直しの動きがみられたが、11年3月には東日本大震災の影響により、前月比でリーマンショック時を上回る下落率を記録した。

(3年ぶりに上昇した生産指数)

2010年の鋳工業生産指数は91.6で前年比23.6%増となり、3年ぶりに前年を上回った。業種別に見ると、全22業種中、輸送機械工業、一般機械工業、鉄鋼業など17業種で上昇し、食料品工業など5業種で低下した(図表4-1)。

図表4-1 2010年の業種別生産指数(愛知県)

	(2005年=100) (%)			
	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鋳工業	10000.0	91.6	23.6	23.6
鉄鋼業	646.2	91.0	32.3	1.936
非鉄金属工業	139.1	92.9	24.2	0.340
金属製品工業	352.7	89.2	5.9	0.238
一般機械工業	1207.4	70.0	37.0	3.080
電気機械工業	456.6	94.7	38.2	1.614
情報通信機械工業	182.7	90.1	7.3	0.150
電子部品・デバイス工業	262.1	92.3	18.2	0.502
輸送機械工業	4549.8	97.9	28.6	13.385
精密機械工業	33.2	90.6	-9.9	-0.045
窯業・土石製品工業	352.6	86.3	29.0	0.923
化学工業	267.9	103.3	7.2	0.249
石油・石炭製品工業	33.6	92.6	4.6	0.019
プラスチック製品工業	463.2	94.8	13.7	0.713
パルプ・紙・紙加工品工業	84.4	90.7	6.0	0.058
繊維工業	149.3	63.3	9.3	0.109
食料品工業	400.6	91.5	-1.2	-0.059
ゴム製品工業	166.0	97.5	20.7	0.374
家具工業	89.2	88.4	16.0	0.147
印刷業	113.8	87.9	-2.4	-0.034
木材・木製品工業	31.8	59.4	-16.1	-0.049
その他製品工業	14.5	77.8	-1.0	-0.002
鋳業	3.3	60.4	10.0	0.002

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:愛知県統計課「あいちの鋳工業」

(全国と本県の状況)

本県と全国における鋳工業生産に占める業種別のウェイト(2005年基準)をみると、本県では、輸送機械工業が45.5%と際立って大きく、これに次ぐ一般機械工業が12.1%と、この2業種だけで全体の60%近くを占めている。特に輸送機械工業は、本県の鋳工業全体に占める割合の増加が続いている。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は1.8%、電子部品・デバイス工業は2.6%と2業種合せても4.4%であり、IT産業の占める割合が非常に低いという特徴を備えている。

図表4-2 2010年の業種別生産指数(全国)

	(2005年=100) (%)			
	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鋳工業	10000.0	94.4	16.4	16.4
鉄鋼業	599.7	93.8	29.4	1.575
非鉄金属工業	211.7	90.5	16.9	0.342
金属製品工業	566.8	83.1	6.7	0.363
一般機械工業	1318.2	82.8	37.3	3.657
電気機械工業	607.3	94.4	19.6	1.161
情報通信機械工業	433.4	91.6	9.8	0.438
電子部品・デバイス工業	799.3	126.3	26.3	2.592
輸送機械工業	1685.8	94.5	26.7	4.137
精密機械工業	102.0	105.1	24.2	0.258
窯業・土石製品工業	293.0	85.2	10.9	0.303
化学工業	1181.3	100.8	5.8	0.801
石油・石炭製品工業	99.9	91.1	1.0	0.011
プラスチック製品工業	383.7	89.8	9.4	0.364
パルプ・紙・紙加工品工業	241.0	89.1	3.8	0.098
繊維工業	200.9	67.9	1.2	0.020
食料品・たばこ工業	721.2	102.4	0.1	0.009
ゴム製品工業	153.6	90.3	22.2	0.311
皮革製品工業	12.3	59.8	-3.1	-0.003
家具工業	85.3	70.2	0.1	0.001
印刷業	180.7	109.2	2.8	0.067
木材・木製品工業	57.3	72.6	3.3	0.016
その他製品工業	44.7	42.9	4.1	0.009
鋳業	20.9	90.0	-3.8	-0.009

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:経済産業省「鋳工業指数年報」

一方、全国では、輸送機械工業が16.9%、一般機械工業が13.2%、合計で30.1%となり、この2業種が占めるウェイトは、本県での割合の約半分となる。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は4.3%、電子部品・デバイス工業は8.0%と2業種合わせると12.3%となり、本県での割合の3倍近くを占めている。

このように、本県と全国では業種別のウェイトに大きな差があることもあり、生産指数の動きにも異なる様相がみられることがある。

本県の生産指数の動きを四半期別にみると、輸出の増加を背景にした持ち直しにより、02年7-9月期に前年同期比がプラスに転じて以降、長期にわたり前年を上回る回復を続けてきた。しかし、08年に入ると、世界経済の後退に伴ってプラス幅が徐々に縮小し、7-9月期には02年4-6月期以来25期ぶりの前年割れに転じ、10-12月期、09年1-3月期はリーマンショックによる世界同時不況を受けて、輸出依存度の高い輸送機械を中心に生産活動が急速に低下し、全国を上回る大幅な落ち込みを示すこととなった。その後、海外経済の改善による輸出の増加傾向や世界各国で採られた自動車購入支援策等の経済対策の効果もあり、マイナス幅は徐々に縮小し、10-12月期は前年同期比2.2%減と前年とほぼ同水準にまで回復し、10年1-3月期には同54.1%増と大きく持ち直した。4-6月期以降は輸出の鈍化やエコカー補助金制度の終了等を背景に、生産指数が徐々に低下していくなか、震災によるサプライチェーン寸断の影響を受けて、11年1-3月期は同10.7%減、4-6月期は同20.8%減と全国を大きく上回る落ち込みを記録した。

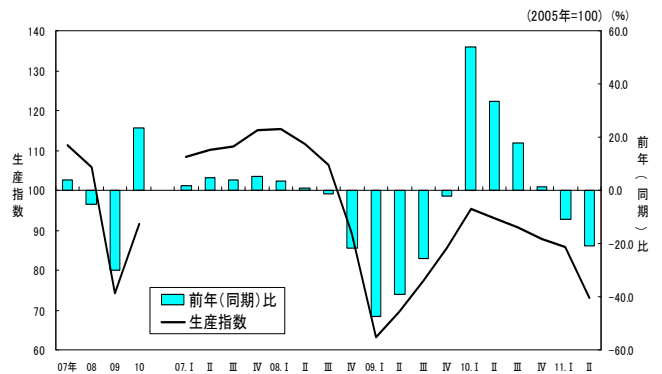
一方、全国では、04年後半からIT関連品目の輸出の伸びがアジアやアメリカ向けを中心に減速したことから前年の伸び率が鈍化し、05年7-9月期には同0.2%減と02年4-6月期以来13期ぶりの前年割れとなった。06年は再び勢いを取り戻し、07年はやや伸びが鈍化したが、前年を上回る水準を維持した。08年は、本県と同様の動きを示し、7-9月期には同1.4%減と前年割れとなり、10-12月期は同14.5%減、09年も景気後退を受けて1-3月期は同34.6%減と大きく落ち込んだ。その後は経済対策の効果で、マイナス幅は徐々に縮小し、10年1-3月期には同28.0%増と持ち直し、4-6月期以降伸びは鈍化するものの、前年を上回る水準が続いていたが、震災の影響により、11年1-3月期は同2.5%減、4-6月期は同6.8%減となった(図表4-1、4-2、4-3、4-4、4-5)。

図表4-3 生産指数の推移(愛知県・全国)

		愛知県		全国	
		指数	対前年(同期)増減率	指数	対前年(同期)増減率
2009	年間	74.1	-29.9	81.1	-21.9
	1-3	63.2	-47.4	74.2	-34.6
	4-6	69.6	-39.0	79.0	-27.4
	7-9	77.3	-25.7	83.2	-19.4
	10-12	85.5	-2.2	88.1	-4.3
2010	年間	91.6	23.6	94.4	16.4
	1-3	95.4	54.1	94.6	28.0
	4-6	93.0	33.3	95.3	21.3
	7-9	90.7	17.9	94.3	14.0
	10-12	87.9	1.1	94.2	5.9
2011	年間	-	-	-	-
	1-3	85.7	-10.7	92.3	-2.5
	4-6	73.0	-20.8	88.6	-6.8

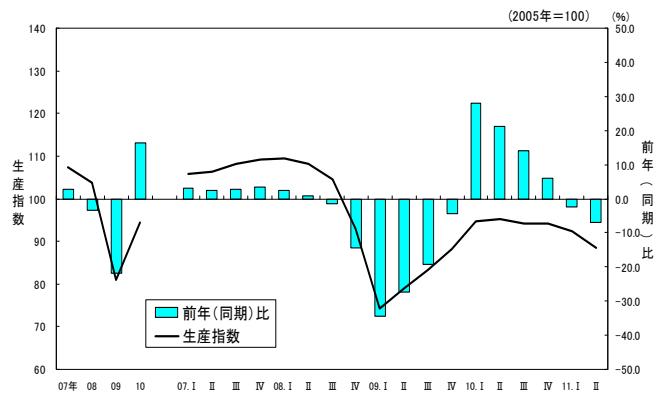
注1: 期別の指数は季節調整済指数
注2: 対前年同期増減率は原指数から算出

図表4-4 鉱工業生産指数の動き(愛知県)



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表4-5 鉱工業生産指数の動き(全国)



資料: 経済産業省「鉱工業生産・出荷・在庫指数」

(4年ぶりに上昇した投資財)

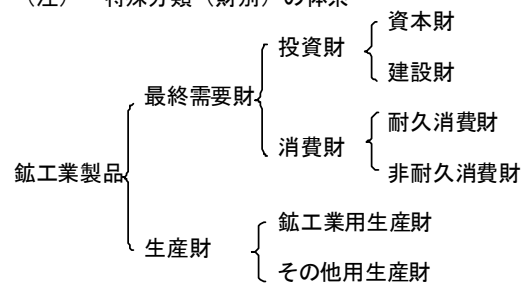
本県における2010年の生産を財別にみると、投資財のうち資本財は、国内及び海外の設備投資の増加の動きを受けて前年比26.9%増と3年ぶりに上昇した。また、建設財は、公共工事の減少が続いていることなどから同2.9%減と4年連続で低下した。投資財全体では、同18.7%増となり、4年ぶりの上昇となった。

消費財のうち耐久消費財は、乗用車などの持ち直しにより同25.5%増となり、3年ぶりの上昇となった。また、非耐久消費財は、飲料などが減少したものの、医薬品などが増加したことなどから同0.3%増と4年連続で上昇した。消費財全体では同19.4%増となり、3年ぶりの上昇となった。

生産財は、輸出の増加に伴う生産の回復により、同26.6%増と3年ぶりの上昇となった。

このように、10年は、輸出の鈍化やエコカー補助金終了後の反動などもあって、改善の動きが徐々に弱まったものの、リーマンショック後の大きな落ち込みから回復し、生産財、消費財、投資財の全てで前年から大きく上昇した。しかし、11年に入ってから、震災の影響もあり、耐久消費財と生産財で前年を大きく下回る動きが続いている(図表4-6)。

(注) 特殊分類(財別)の体系



(主要業種の動向)

2010年は、海外経済の改善による輸出と経済対策の効果にけん引された景気回復の動きを受けて、本県の基幹産業であり、リーマンショック後の世界同時不況により大きく落ち込んだ輸送機械を始め一般機械、鉄鋼などが持ち直したことから、3年ぶりに前年を上回り、23.6%増の高い伸びとなった。業種別の寄与度をみると、鉱工業生産の中で最もウェイトの高い輸送機械が2分の1以上を占め、生産全体の伸びに対する寄与度が最も大きい。

11年に入ってから、業種によっては持ち直しの動きがみられたものの、3月の震災により、輸送機械を中心に大きな打撃を受けることとなった(図表4-1)。

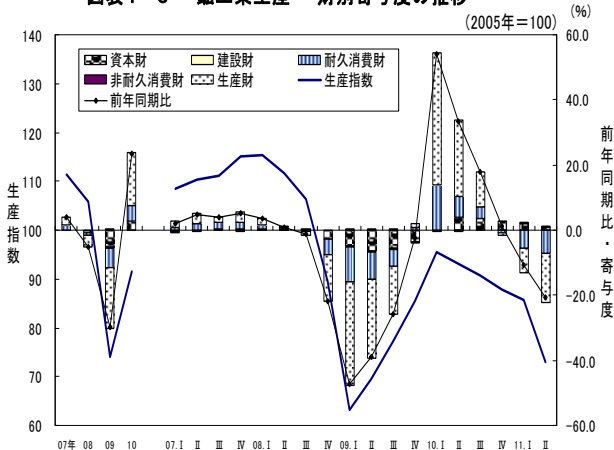
(輸送機械工業)

本県の基幹産業である輸送機械の2010年の生産指数は97.9で、前年比28.6%増となり、3年ぶりに上昇した。これは、自動車部品(同28.9%増)、自動車(同29.1%増)等全ての分類で上昇したことによる。

10年の生産指数の動きを四半期別にみると、1-3月期は輸出と経済対策の効果にけん引された前年からの持ち直しの動きを受けて高い伸びを示したが、4-6月期以降、アジア向けの輸出の停滞やエコカー補助金終了に伴う自動車生産の落ち込みにより、伸び率が徐々に鈍化し、10-12月期にはマイナスに転じた。

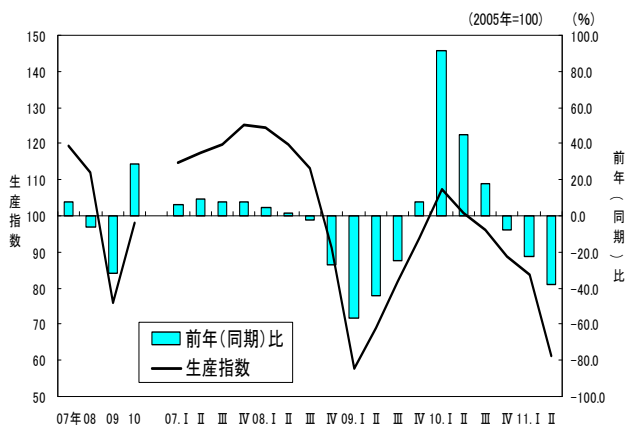
11年に入るといったん持ち直しの動きがみられたが、震災によりサプライチェーンへ影響が及び、乗用車、自動車部品の生産が停滞したこともあり、1-3月期、4-6月期と大きく低下した(図表4-7)。

図表4-6 鉱工業生産 財別寄与度の推移



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表4-7 輸送機械工業の動向

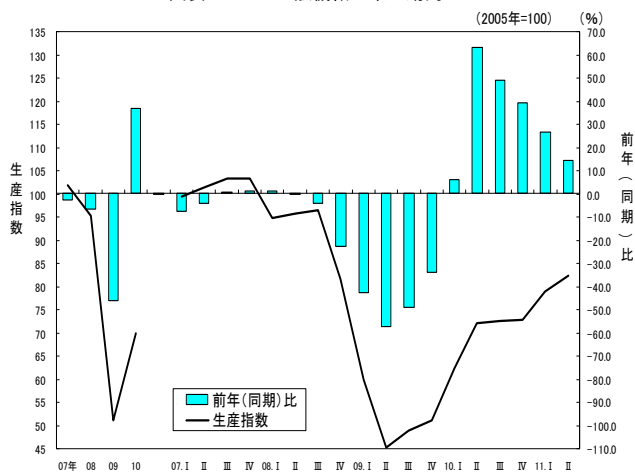


資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈一般機械工業〉

2010年の一般機械の生産指数は70.0で、前年比37.0%増となり、4年ぶりに上昇した。これは、その他の一般機械(同23.5%減)等が低下したものの、海外向けを中心にした持ち直しにより、機械工具(同55.1%増)、金属工作機械(同79.3%増)等が上昇したことによる。

図表4-8 一般機械工業の動向

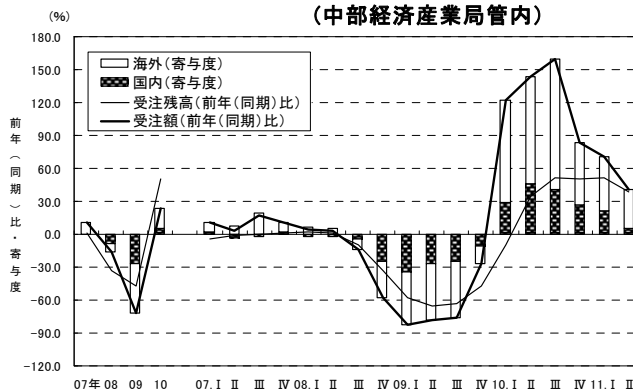


資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

「金属工作機械受注状況」で中部経済産業局管内の金属工作機械メーカー主要8社の受注状況を見ると、海外受注が総受注をけん引し、前年比123.5%増と3年ぶりに前年を上回った。国内受注は、同97.9%増と5年ぶりに前年を上回った。業種別では、一般機械工業(同90.1%増)、自動車工業(同123.7%増)など全ての業種で前年を上回った。海外受注は、

同137.9%増と3年ぶりに前年を上回った。地域別では、北米向けが同136.4%増と4年ぶり、ヨーロッパ向けが同111.5%増と3年ぶり、アジア向けが同168.9%増と3年ぶりにそれぞれ前年を上回った。国別では、中国向け受注が過去最高額を記録し、アメリカ向けを初めて上回り、1位となった(図表4-8、4-9)。

図表4-9 金属工作機械の受注動向 (中部経済産業局管内)

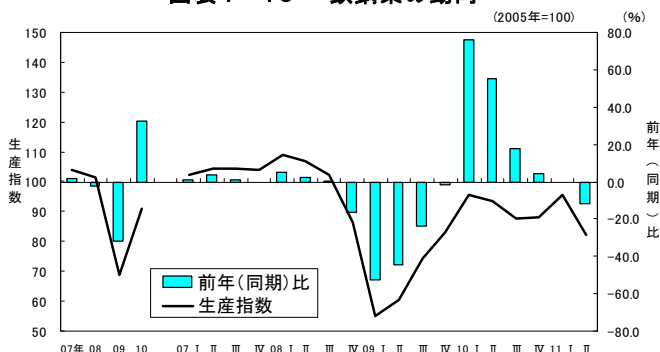


資料: 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

〈鉄鋼業〉

2010年の鉄鋼業の生産指数は91.0で前年比32.3%増となり、3年ぶりに上昇した。これは輸送機械向けや産業機械向けの持ち直しなどにより、熱間圧延鋼材(同33.4%増)、鉄素製品(含、鋼半製品)(同36.6%増)等全ての分類で上昇したことによる(図表4-10)。

図表4-10 鉄鋼業の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」